

ほんのしるべ

# 書標

2023.  
7月号

2023年7月5日発行(毎月1回5日発行)  
通巻535号 昭和61年7月15日第三種郵便物認可





## ハンガリー・セントンドレ フォーシズ書店

ノセ事務所  
能勢 仁

ハンガリーといえばドナウの真珠と称えられるブダペストであるが、そこから北方へ列車で一時間ほどの距離にセントンドレという小さな美しい街がある。ハンガリーの書店はブダペストのリブリを *könyvtár* で紹介した。リブリは市内に八店舗あり、市内最大の書店である。二番手が今回紹介するフォーシズ書店である。

セントンドレは芸術、商業都市であるが、中でも伝統工芸品として人気のあるテールクロス、ハンカチ、ブラウス、壁掛けなどの手芸・刺繍の街としても有名である。

フォーシズ書店の本店はブダペストにあったが、筆者が訪れたのはあいにく休日だった。このフォーシズ書店は本店に

しても、セントンドレ店にしてもウィンドウの使い方が上手い。中でも驚いた陳列は床に埋められた本である。床ウィンドウと言えはよいのであろうか。オーナーに尋ねたら、月に一度陳列替えするそうである。また、この店はレジの後ろにも書架がある。オーナー曰く、うちの店は固定客が中心なので、地域は家族のよつなものですよと言っていた。床陳列といい、レジ後ろ陳列といい、書店のどこかさを感じられた。地図の多い陳列は観光客が立ち寄るからである。

セントンドレの絵葉書、観光客向きのビデオは売れ行きがよいという。しかし品揃えの中心は文学、人文、美術、芸術書であった。塵ひとつない清潔な書店であった。



いかがお過ごしですか。こちらは七月を迎え、暑い日が続いています。アラスカが暑いなんてきつと信じられないでしょうね。でも極北の夏はカラッとしますが、今、グッチン・インディアン（年老いたワタリガラス）の村、オー

ルド・クロウ（年老いたワタリガラス）にいます。この集落はカナダ北極圏からアラスカ北極圏へと流れるポーキユバイン川のほとりにあります。国境をはさんでわずかにカナダ側です。この極北の美しい川は、その下流でアラスカ側の大河ユーコンに注いでいます。

星野道夫『旅をする木』（文春文庫）より



# もくじ

世界の本屋さん 138

「書標」歳時記 〈7月〉

著書を語る⑥14 現代の独裁は民主主義の合わせ鏡か

東島 雅昌 2

書標・書評 『空海論／仏教論』 ほか

特集 生誕二〇〇年！ ファーブルからひろがる世界 4

雨 13

今月のおすすめ

コンピュータ	17	自然科学	18
医学書	19	社会科学	20
人文科学	22	文学・文芸	23
文庫・新書	24	芸術	25
実用書	26	地図・旅行書	26
語学・辞典	27	児童書	28
読者から	29		
インフォメーション	30		

本屋つらばなし コロナ禍が明けた今、オンライン

イベントについて考えること（後編）

※表示価格はすべて税込み価格です。

# 現代の独裁は民主主義の合わせ鏡か

東島 雅昌



高校生のころから、国のかたちが大きく変わろうとするとき、それに翻弄される人々がどのように考え行動するのか、という問題に強い関心を抱いていた。たとえば、独裁制から民主制へと為政者を選ぶしくみが変わるとき、内戦で社会秩序が混乱するとき、戦争が生活を一変させるとき……。

民主主義国家であり、内戦や戦争のない戦後日本に暮らす自分にとって遠い出来事に思えたからこそその好奇心の発露だったかもしれないが、その一方、太平洋戦争時に朝鮮半島や沖縄といった大日本帝国の「周縁」に身を置き、歴史に大きく翻弄された祖父母たちのことが、頭の片隅になかったとは言えない。

そんな思いを抱きつつ大学に入学し、「政治変動」への好奇心に駆られてさまざまな本を読んだ。中国民主化の可能性、米国の対日占領政策、日本とドイツの民主化過程と戦後民主主義、途上国のグローバリゼーションと体制変動など、様々なテーマの本を手にとって、節操なく知識を仕入れた。トピックはバラバラだったが、自分の世界とは異なる国や時代の政治変動がいかなる意味をもつのか理解したい、という気持ちでは一貫していた。

修士論文のテーマとして、貿易自由化と民族間関係の相剋のなかで、民主化が如何にして阻害されるのかについて採り上げたとき、事例に挙げた中央アジアのカザフスタンに興味を深め、それを期に独裁制の研究をはじめた。

拙著『民主主義を装う権威主義——世界化する選挙独裁とその論理』の着想を得たのは、二〇〇八年一二月に中央アジアのカザフスタンとキルギス共和国を訪れ、現地調査をはじめたときのことだ。ソヴィエト連邦の解体という二〇世紀最大とも言うべき大きな政治変動を経験し、一九九一年に国家として独立するに至った両国は、多くの共通点を持っていた。

ソ連構成共和国であった過去、一九九〇年代の経済破綻と急進的な経済改革、多数のロシア系住民を含む多民族社会、よく似た大統領制と選挙制度、そして地方有力者と中央政府のあいだの政治力学などを共有する両国は、ソ連解体で産み落とされた「双子」のようであった。さらに、カザフスタンのナザルバエフ大統領とキルギス共和国のアカエフ大統領は、独立後の数年間民主化に意欲的に取り組みながら、ほぼ同時期に独裁化への道を歩み、大統領への権力集中が進んだ点もそっくりであった。

しかし、無視できない違いもあった。現地調査中にタクシーで、カフェで、レストランで市井の人々の話に耳を傾ける機会があった。カザフスタンの人々は政治指導者に好意的な意見を述べることが多かったのに対し、キルギス共和国の人々は冷淡で批判的な考えを語る人が多かった。また、よく似た権威主義体制でありながら、かたや二〇〇〇年代のナザルバエフ体制では露骨な選挙操作が減少したにも拘らず選挙に圧勝して体制は堅固化し、対照的に、アカエフ体制は選挙操作をつうじた政権維持に失敗し、「チューリップ革命」と呼ばれる二〇〇五年の反政府運動により体制が瓦解した。

国民の意思が尊重されない独裁体制においても、人々の支持を固めるのが重要になることもあるのではないか。独裁制の権力の根源が暴力や不正にないとするれば、それは一体、何に由来するのか……。

本書は、この謎を解明すべく、市民の「自発的支持」を集めるために独裁者たちが用いる経済分配の能力に着目している。独裁者たちが組織的なバラマキ政策をおこない、経済的成果を人々に広く享受させることで、自らが有能で慈悲深い指導者であることを広く知らしめ、暴力や不正を慎むことで体制の基盤を固める。そして、物質的恩恵の力を借りて民主主義者を装いそこなった権威主義者たちは、たとえ独裁制といえども大衆の力によって罰せられる。人権保護と公正な選挙のための国際監視が強まっている現代世界は、独裁者たちにとつてまことに統治しづらい環境をもたらしている、と言うこともできよう。

『民主主義を装う権威主義』は、中央アジア二カ国の比較事例研究と戦後世界に存在した独裁制を射程としたデータ分析をつうじて、民主主義とは異なる国々の選挙と統治のあり方に光を当てている。しかし同時に、「進化」する現代独裁制のあり方は、法の許す範囲であらゆる手を尽くして選挙に勝とうとする民主主義下の政治家たちの姿とも、重なるところがある。

近年「権威主義対民主主義」という対立の図式がクローズアップされているが、両者は実は私たちが思っているよりも近似した存在なのかもしれない。拙著は、自分の生まれ育った国と異なる世界を理解したいという筆者の好奇心から生まれたが、「異なる世界」の合わせ鏡として「私たちの世界」があるのだということも、示唆しているように思われてならない。



『民主主義を装う権威主義』

——世界化する選挙独裁とその論理』

千倉書房・6,160円



## 『空海論／仏教論』

清水高志著

以文社・二八六〇円

紀元前三〇〇〇年に始まるインダス文明が生んだ古代インドの論理学は、排中律を遵守する西洋の論理学が排除した「Aかつ非A」「Aでもなく非Aでもない」という第三、第四レナマを採用する。パースのアブダクシオンとも通底する、可謬性を認めたインドの論理学は、二項対立が起きるとすぐさま第三項が現れ、そのダイナミックな連続によって、仏教の十二支縁起の往還や曼荼羅を生み出していった。それは、レヴィ・ストロースが発見した「野生の思考」Ⅱ「神話論理」と同型のものであり、今日でも、最新の人類学によって、さまざまな民族誌の中で報告されている。

プラトンらが生きた紀元前四〜五世紀古代ギリシアの文化は、「当時の時点でもうルネサンス、つまり復興だったんじゃないか。『野生の思考』とその知を回復したいという欲求があったのではないか」と清水は言う。その知は、清水に

よれば、近現代西洋哲学の「主観―客観」図式の限界を突破しようとする、今日のメイヤスーやハーマンの「思弁的実在論」の、更に先を行く知なのだ。

そして古代日本における最も独創的な思想家、空海。著作によってみずからの世界観を構造的に説き起こした最初の日本人である空海は、「卍」という一文字に、「縁起」をはじめとした仏教思想のすべてが込められているのを見て取った。その著作『卍字義』を、清水は丹念に読み解いていく。

五〇〇〇年の、全地球規模の人類の知が、今この一冊に現在している。(フ)

## 『墨のゆらめき』

三浦しをん著

新潮社・一七六〇円

おっとこの表紙は何だ？ 和風ホラーかな？と思つたら三浦しをん先生の新作でした。表紙のオブジェはshikariko(シカフコ)さんの「胞」というアート作品。あまりの存在感から、縄文時代の神様みたいなものかと思いました。生真面目なホテルマンと自由奔放で才気あふれる書家がタッグを組んで代書屋をする話ですが、報酬はうまい棒や牛肉であつたり、

仕事内容が「小学生が転校する友達に宛てて書く手紙の代筆」や、「別れたくてだらしなない所を見せつけているにも関わらず、大きな包容力で全てを受け入れてしまふ彼が別れる気になるような手紙の代筆」だったり、ちよつと愉快でごちんまじりした内容です。一つ一つの事柄やセリフが彼らの心情や性格を浮き彫りにし、やがて大きく物語が展開していきます。もうその頃には「生真面目」や「自由奔放」などという言葉では言い表せない感情豊かな、奥深い人間像が見えてきます。

そして、ぜひ再読をおすすめします。一度通して読んでから一章だけでも読み返してみてください。私は思わず声が出ました。ポップな文体で軽妙に進んでいる物語がここまで計算しつくされている事に脱帽です。大好きだけど、邪魔はしたく無い位に大切、という切ない感情が痛い程伝わってくるのがたりです。

最後に、謝辞の部分に「小学生の語彙監修」「猫の生態監修」「猫の足跡協力」とあります。そんな監修があるのかと感心したとともに、些細なことも確認し、その事を感謝する先生の人柄がこの心を爽やかにしてくれたストーリーを生み出

したんだと納得しました。(蒙)

## 『第一次世界大戦と日本参戦』

飯倉 章著 吉川弘文館・二二〇〇円

ヨーロッパからアジア太平洋地域までを巻き込んだ第一次世界大戦。なぜ大戦が起ったのか。開戦から一世紀以上を経た現在でもなお歴史家をして「コンセンサスがないのがコンセンサス」と言わしむるほど、当時の国際状況・歴史的背景は難解複雑極まりない。南東ヨーロッパのサラエボで起ったテロ事件が引き起こした戦争に何故、日本が参戦することとなったのか。

日本はこの大戦に参戦することで五大国の地位を確たるものとした。日本近代史の上でも極めて重要な事件である。しかしながら、第二次世界大戦と比べて日本人が持っている印象は圧倒的に薄い。外交的、軍事的視点から日本の参戦過程と、その後の第二次世界大戦に繋がる影響を提示しようというのが本書の試みである。

本書では日英同盟をひとつの基軸として、それらを取り巻く国際情勢とそれぞれの国内情勢から、日本の参戦にいたる

経緯を見ていく。同床異夢の同盟関係が果たした意義を、大戦後に日英同盟と引き換えに結ばれ、水に割りすぎたウイスキーと酷評された四カ国条約と比較して論じるのは非常に興味深い。歴史に「三」は禁物だが、大戦の結果生まれた薄い条約が外交的なブレゼンスを發揮しなかった史実を振り返ることで、日英同盟が果たした外交的な意義が浮き彫りにされている。海千山千が跳梁跋扈する国際関係の怖さ、各国の思惑が交錯する国際外交の複雑さを見せつけてくれる。(仙)

## 『くもをさがす』

西加奈子著 河出書房新社・一五四〇円

「カナダでがんになった」ポスターの中にこのフレーズを見つけ、涙を堪えることができなかつた。その新刊こそ、異国の地で宣告された乳がんとの日々を綴った著者初のノンフィクションだった。

私の中の著者はいつも大きく口を開けて笑っている。そして「誰やねんそいつ、どついたるわ!」と言って肩を組んでくれているような強さを持っていた。そんな著者が「私は弱い。徹底的に弱い」と訴える本書を読むには勇気が必要だった。

学生時代、命に関する授業を受ける。「時間を無駄にしないように生きよう」そんな感想を抱いていたがそこには大事なことが欠けていたのかもしれない。それが「自分」への意識だ。世の中には常識やらTPOやら見て見ぬ振りができる空気やら、それに対応する八方美人な「私」で溢れている。そんな中で忘れがちだが、泣く権利も怒る権利も、もちろん心の底から喜ぶ権利も誰にでもある。自分を取り囲む環境だけでなく、湧き上がる様々な感情をも含め、「自分」を受け入れることが「私」を生きることなのだ、著者は教えてくれた。それが「私は弱い」という言葉に込められていたのかも知れない。その中で「私は私だ」、「私に私を返してくれた」と著者が感じる瞬間はだからこそ特に美しいものだった。

黒い文字が並んでいるだけの本から、音や匂いが、誰かの声や表情が、そして圧倒的な生命力が立ち上がってくる。たったひとつの、たったひとつの著者の生から向けられたメッセージが、多くの「私」に届いてほしいと切に願う。

「あなたに、これを読んでほしいと思った」(小)



二〇二三年。今年は何の年？

真っ先に思いつくのは「関東大震災一〇〇年」ですが、そのさらに一〇〇年前に、あの人が生まれています。

そう、今年は『昆虫記』のジャン・アンリ・ファーブル（一八二三～一九一五）の生誕二〇〇年なのです！

西暦一八二三年二月二日、南フランスのサン・レオンで誕生。チャールズ・ダーウィンと並ぶ初期の進化論者で探検家だったアルフレッド・ラッセル・ウォレスも、同年にウエールズで生まれています。

ちなみに勝海舟も同い年。日本は文政六年、ドイツ人医師シーボルトが長崎出島に着任した年。江戸時代後期で、幕末の胎動の時期ですね。

ファーブルといえば、何はさておき『昆虫記』をひもどくのが一番なのは間違いありません。奥本大三郎さんの労作『完訳ファーブル昆虫記』（集英社）は詳細な訳註と図版が付され、まさに決定版。しかし全一〇巻・二〇冊を並べると、それだけで「愛書家の楽園」の棚が埋まってしまいます（そもそも、多くの書店さんで『完訳ファーブル昆虫記』を備えて

おられるでしょう）。

そこでここでは、ファーブルの「本編」ではなく、「ファーブルからひろがる世界」を拾ってみました。

### ファーブルへの入口

これは、ファーブルの全著作の解説目録をつくった昆虫学者カンブフォールによる『ファーブル驚異の博物誌』が最適です。巻頭「ファーブルの生涯」の後は『昆虫記』のダイジェスト。ファーブルの言葉、『昆虫記』の抜粋、厳選された美しいカラー写真を、しやれたレイアウトで見せてくれます。最終章「ファーブルの後継者たち」では、死後の評価、動物行動学、芸術家たちへの影響に加え、ファーブルが日本で人気が高いことも紹介しています。



『ファーブル驚異の博物誌』



イヴ・カンブフォール／奥本大三郎・瀧下哉代訳『ファーブル驚異の博物誌』（エクスナレッジ・二六四〇円）



『ファーブル伝』

イメージがつかめたら、ファーブルその人に迫りましょう。それにはやはり伝記がいいです。

『ファーブル伝』は単なる伝記ではなく、『昆虫記』の世界やファーブルの思想についても踏み込んでいます。ファーブルがダーウインの進化論を否定したことは有名ですが、それにも一章を割いています。著者ルグロ（一八六二―一九四〇）はファーブルの同時代の医師で、国会議員にもなった人。おもしろいのは、ルグロは昆虫に興味があったのではなく、ファーブルの著作を読んで感動し、窮乏生活に陥っていたファーブルの不遇に義憤を感じて、その顕彰に尽くした人だとい

ことです。初版刊行はファーブル没後の一九二四年ですが、草稿に寄せたファーブルの序文が掲載されています。

ジュールジュ・ヴィクトール・ルグロ／奥本大三郎訳『ファーブル伝』（集英社・四六二〇円）

じつは母国フランスでは、ファーブルは日本ほど知名度は高くありません。二十世紀初頭まではよく読まれ、『失われた時を求めて』のブルーストや大哲学者ベルクソンにも影響を与えましたが、その後忘れられてしまったようです。日本では大正時代に薄田泣菫、賀川豊彦、大杉栄といった知識人に注目され、『昆虫記』という邦題をつけたのは最初の翻訳者・大杉栄だとか。原題を直訳すると『昆虫学的回想録』、誰でも知っている「昆虫学の代名詞」になっているのが（カンブフォールは「日本ではファーブルは西洋の偉人の一人に数えられている」と驚いています）。ただ近年、カンブフォールなどの動きもあってか、フランスでも再評価されつつあり、生地サン＝レオンに昆虫博物館もできたそうです。

## ファーブルの周辺

さて、『ファーブル昆虫記』は、生物の本にしてはとてつもなくクセのある、独特の語り口も魅力のポイントです。その源泉は、ファーブルが少年期に親しんだウエルギリウスやラ・フォンテーヌの寓話などの古典文学らしいです。田園の自然を歌った古代ローマの詩人ウエルギリウス＋動物たちを擬人化した十七世紀フランスの詩人ラ・フォンテーヌ。たしかにこれは、ファーブル昆虫記の世界そのままではありませんか？

ウエルギリウス／河津千代訳『牧歌・農耕詩「新装版」』（未來社・四一八〇円）  
ラ・フォンテーヌ／ブーテ・ド・モンヴェル絵／大澤千加訳『ラ・フォンテーヌ寓話』（ロクリン社・一九八〇円）



『ラ・フォンテーヌ寓話』

前述のように、ファーブルは同時代人

チャールズ・ダーウィン（一八〇九—一八八二）の進化論に反対していました。『昆虫記』には「進化論への一刺し」という「痛烈」なエッセイもありますが、ダーウィンはファーブルの研究に感服していました。二人は互いに深く尊敬しあっていて、文通もしていたそうです。ダーウィン最後の著作『ミミズによる腐植土の形成』にも、アナバチについてのファーブルの研究が引用されています。ダーウィン／渡辺政隆訳『ミミズによる腐植土の形成』（光文社古典新訳文庫・九九〇円）



『ミミズによる腐植土の形成』

もう一人、動物行動学の元祖的存在で、近年、多方面から再発見されている「環世界」という概念の提唱者であったエスニア出身のドイツの動物学者ヤーコブ・フォン・ユクスキュル（一八六四—

一九四四）も、ファーブルをリスベクトしてしました。代表作『生物から見た世界』で、ファーブルのヤママユ（蛾）の研究を引用しています。ユクスキュル、クリサート／日高敏隆・羽田節子訳『生物から見た世界』（岩波文庫・七九二円）



『生物から見た世界』

ファーブルの哲学  
アナキスト大杉栄のファーブルへの傾倒に見られるように、ファーブルには「思想」を触発する磁力があります。フランスの科学史家ドルーアンの『昆虫の哲学』は、多面的な視角から「昆虫と人間」を考察する、とてもおもしろい本です。アリストテレスからデリダにまで至る古今の哲学者、さらに生物学者、動物学者の業績まで博覧強記の、フランスのエスプリに満ちた本ですが、ファーブルについ

てもたつぷり語られています。ちなみにこの本のファーブルへの言及の中で、ユクスキュルが引用しているのと同じと思われるヤママユの研究が紹介されています。記述が微妙に違いますが、同じ箇所なのかな？

ジャン＝マルク・ドルーアン／辻由美訳『昆虫の哲学』（みすず書房・三九六〇円）



『昆虫の哲学』

ファーブルの昆虫学  
現代の昆虫学者のみならずも、その多くは「ファーブルの子」。少年時代からの昆虫採集とファーブルの読書から、昆虫学者への途が開かれた人が多いでしょう。良書は多いですが、ここでは最新の昆虫学でありながらファーブル・スピリットを感じさせる二冊をご紹介します。



『アント・ワールド』

ファアブルはアリがあまり好きではなかつたらしいですが、「社会性昆虫」と言われるアリの研究から「社会生物学」を提唱したのが大生物学者ウィルソン。一般読者向けに「冒険物語」として書いたという『アント・ワールド』で、自伝的回想を交えながら、アリの世界に招待してくれます。ウィルソンは親の都合などで小さい頃からアメリカ各地を転々としたようですが、行く先々で必ず、豊かな自然と動物たち、昆虫たちに触れています。十三歳でアメリカ、というより北半球最初のヒアリを発見したウィルソンがアリ学者になったのは、「天命」としか言いようがありません。最新研究に基づく世界中のアリのさまざまな物語です。エドワード・O・ウィルソン／大河原恭祐監訳／川岸史訳『アント・ワールド』(アリの世界) (ニュートン新書・一三〇〇円)



『武器を持たない チョウウの戦い方』

『武器を持たないチョウウの戦い方』は最新の昆虫行動学です。著者の竹内さんも元昆虫少年で、野山でチョウウを追っかけた人。チョウウにはオス同士でクルクル追いかけてつこうしあう「卍巴飛翔」と呼ばれる行動があります。一種の縄張り争いなのですが、相手を攻撃することはなく、しばらく追尾しあつて、先に切り上げたほうが縄張りから去る。いったいチョウウはなぜこんな行動をするのか? 著者は考え続けますが、なかなか説得力のある理論が作れない。——それがある日、ゼミで大学院生が発した何気ない一言がきっかけで、一挙に光明がさしてくる……。この過程はスリリングです。科学研究の面白さが、ひしひしと伝わってきます。竹内剛『武器を持たないチョウウの戦い方』——ライバルの見えない世界で (京都大学学術出版会・二四二〇円)

二〇〇年後のリアル——絶滅  
二十世紀後半、ファアブルの時代には想像しえなかつたようなスケールで現実になったのが、昆虫を含むいろいろな生物種の絶滅です。



『沈黙の春』

環境汚染問題を全世界に知らせた歴史的な問題作にして二十世紀の古典であるカーソン『沈黙の春』(原著一九六二年刊行)は、殺虫剤の話から始まります。「害虫」を駆除するために化学薬品を大量散布した結果、益虫も害虫も皆殺しになるだけでなく、鳥も魚も死に、生命あるものすべての環境が破壊される。カーソンはこの恐ろしい現実をいち早く気づき、警告を発しました。本書にはヒアリについての記述もありますが、一九六〇年頃、すでにヒアリの専門家として知られていたエドワード・O・ウィルソンは、カー

ソンから話を聞きたいと連絡をもらった  
 そうです。ウイルソンはカーソンの病氣  
 のため結局会えなかったことを、残念そ  
 うに記しています(『アント・ワールド』)。  
 レイチェル・カーソン／青樹築一訳『沈  
 黙の春』(新潮文庫・八二五円)



『サイレント・アース』

カーソンの警告から六十年。事態はよ  
 くなつたか？ 昆虫に関するかぎり、そ  
 うは言えないようです。やはり昆虫少年  
 だった過去をもつイギリスの昆虫学者  
 グールソンは、カーソンの時代よりはる  
 かに毒性の強い農薬、土壌劣化、河川汚  
 染、さらに集約農業や森林伐採によつて  
 昆虫のすみかは縮小し、急激な気候変動  
 で虫たちの生態環境は悪化し、減少ス  
 ピードが加速しているといえます。  
 デイヴ・グールソン／藤原多伽夫訳『サ  
 イレント・アース——昆虫たちの『沈黙

の春』(NHK出版・二七五〇円)

もう一冊、注目すべき名著を。進化生  
 物学者の千葉聡氏による『招かれた天敵』  
 です。有害生物を制圧する「天敵」とし  
 て招かれた外来の種たちは救世主にもな  
 るが、ときに最強の侵入者にもなる。「害  
 虫」防除の歴史を丹念に描きつつ、長く  
 信じられてきた「自然のバランス」の実  
 像や、生態系メカニズムの今日的な理解  
 へと読者を導きます。カーソンの『沈黙  
 の春』に敬意を払いつつ、その自然観を  
 アップデートする書でもあります。

千葉聡『招かれた天敵——生物多様性が  
 生んだ夢と罠』(みすず書房・三二二〇円)



『招かれた天敵』

絶滅種・絶滅危惧種の写真集がありま  
 す。アメリカ自然史博物館保有の標本か  
 ら四十種の昆虫を選び、写真家レヴォン・  
 ビスが撮影。実物大の三〇〇倍に拡大し、

肉眼では見えない色や質感、毛、鱗粉と  
 いった細部を鮮明に再現しています。人  
 気昆虫学者の丸山宗利氏が翻訳・日本語  
 版監修。美しく、迫力に満ちた昆虫たち  
 の写真とともに、生態、環境の変化や保  
 全活動の現状、レッドリストなど、問題  
 点や取り組みがわかりやすくまとめられ  
 ています。

レヴォン・ビス(写真)／アメリカ自然  
 史博物館(昆虫標本・文)／丸山宗利(翻  
 訳・日本語版監修)『絶滅危惧昆虫図鑑』  
 (日経ナショナルリジオグラフィック・二  
 九七〇円)



『絶滅危惧昆虫図鑑』

### 昆虫文学

『ファーブル昆虫記』の魅力は、単な  
 る昆虫観察記にとどまらない文学性にあ  
 ります。「私の家系」幼年時代の思い出  
 といった自伝的回想や、「昆虫の幾何学」

「数学の思い出」のような「科学エッセイ」が随時挟み込まれています。そうしたファアブルの衣鉢を継ぐような文学、あるいは最新の「昆虫文学」を見てみましょう。

モーリス・メーテルリンク／山下知夫・橋本綱訳『蜜蜂の生活』（工作舎・二四二〇円）

童話『青い鳥』で有名なメーテルリンクの一九〇一年＝二十世紀初年の作。ノーベル文学賞受賞に導いた代表作であるといわれます。自身も養蜂家であるメーテルリンクの、長年のミツバチ飼育で培われた経験に基づく文学的・思弁的エッセイです。メーテルリンクもファアブルの熱烈な支持者で、ルグロが主宰したファアブル記念祝典委員会に名を連ねました。



『蜜蜂の生活』



『幽霊』

北杜夫『幽霊―或る幼年と青春の物語』（新潮文庫・六四九円）

医者になる前は昆虫学者になるつもりだったという、『どくとるマンボウ昆虫記』などでも知られる作家のデビュー作。精神科医でもある著者の幼年～青年期の「心の神話」が主題の自伝的作品で、昆虫だけの話ではないですが、全編で昆虫が飛び交っています。とりわけ幼年期の回想の中で登場する虫たちに注目。ファアブルも書いているアワフキムシの赤い縞、掌に残った蝶の鱗粉など、五感に刻まれた昆虫たちとの邂逅です。

ヘルマン・ヘッセ／岡田朝雄訳『少年の日の思い出』（草思社文庫・七七〇円）  
一九四七年から中学校の国語教科書に載っているので、中島敦『山月記』同様、日本人ならみんな知っている国民的

小説ですよね。ぐだぐだ説明するのはやめておきましょう。この作品もヘッセの母国ドイツではあまり知られてないそうです。原題は物語の鍵となる蛾の名前。ヘッセの蝶や蛾についての作品を集めたミヒェルス編『蝶』（岩波同時代ライブラリー）もいいのですが、同シリーズは廃刊。



『少年の日の思い出』

荻原浩『楽園の真下』（文春文庫・九三五円）

本土から船で十九時間という架空の南国の離島「志手島」。そこに出現した巨大カマキリと、島で発生した謎の連続自殺事件を、ノンフィクション・ライター藤間が追う、モンスタースター・パニック&ミステリー長編。カマキリ版『ジュラシック・パーク』とでもいうべき、傑作エンターテインメント。



『楽園の真下』

川瀬七緒『法医昆虫学捜査官』（講談社文庫・八四七円）

炭化した焼死体の腹部から大量の蠅の幼虫が発見された。しかも一部は生きた状態で。混乱に陥った警視庁は「法医昆虫学」の導入を決断する。起用されたのは赤堀涼子という女性学者。「虫の声」を聴く彼女は、いったい何を見抜くのか？——法医昆虫学者・赤堀涼子が主人公の人気シリーズ第一作。



『法医昆虫学捜査官』

マヤ・ルンデ／池田真紀子訳『蜜蜂』（NHK出版・二二〇〇円）

人工巣箱による養蜂の黎明期だった一八五二年のイギリス／世界各地でミツバチの大量死が発生した二〇〇七年のアメリカ／世界が瀕死の状態に陥った二〇〇九八年の中国という三カ所を舞台に、ミツバチに関わる三つの家族の物語を通して語られる近未来デイストピア小説。著者ルンデはノルウェー人ですが、『三体』の劉慈欣などを連想させる、コスモポリタンでコンテンポラリーな小説です。



『蜜蜂』

まだまだ、昆虫ゆかりの作家はいっぱいいるのですが、いよいよ紙面がありません。そこで最後に、虫採りと山登りが原体験だという文化人類学者・今福龍太さんが、ご自分の「昆虫学の師」たちにかけた架空のラブレター集をご紹介します。

しょう。ファールブル、ダーウイン、ヘッ七、北杜夫はもちろん、手塚治虫、ナボコフ、安部公房、さらに採集・標本器具の製造販売で有名な志賀昆虫普及社創業者の志賀知助、絵本作家の得田之久、高山蝶研究家の田淵行男といったマニアックなお名前が並びます。

今福龍太『ぼくの昆虫学の先生たちへ』（筑摩選書・一八七〇円）



『ぼくの昆虫学の先生たちへ』

（柴俊二）

\*愛書家の楽園・特集「生誕二〇〇年！ファールブルからひろがる世界」で紹介した書籍は、ジュンク堂書店池袋本店一階エレベータ前、三宮店五階、高松店レジ前と福岡店一階、丸善京都本店地下二階と岐阜店入口にて、七月十日～八月九日までフェア展開中です。



# 雨

雨。空を見上げて濃い雲が湧き、風が吹いて、湿った空気を感したら、ポツポツ降り始めてきます。傘を持っていないときは雨雲レーダーと空の色を見比べながら、すぐにやむだろうか？ 自転車で駅まで来たのに、乗って帰れるかな？ 洗濯物を干したまま出てきてしまった！と冷静な顔で頭のなかは大忙しです。

今年四月後半に台風一号が発生して、桜が散ってすぐ初夏になったような気温が続き、季節が早回しになっているように感じます。梅雨入りした後は意外に雨が少ない印象ですが、平年並みとしても今後さらに二十個以上の台風が発生することが予想されるので、まだまだ油断は禁物です。

夏の季語には夕立、驟雨、雷雨や雨休みなど雨に関するものも多くあります。雨が降り、暑さで乾いた土が湿って植物が息をつくときに、読んでみたい本を集めました。雨の言葉、雨の写真集、雨の絵本や、低気圧が原因で体調を崩す人におすすめしたい本もありました。読むと雨の日があまり苦にならなくなるかもしれません。



『雨を、読む』

『雨を、読む』（芸術新聞社・佐々木まなび著・一九八〇円）

「雨」だけで一冊の本ができあがってしまうほど、日本人は様々な表現で雨を読んできた。涙雨、万条雨など同じ雨でも季節や降り方で表現が変わり、雨にまつわる言い伝えやたとえば多種多様。雨の気配や色、匂いなども言葉にしてしまうなんて、きりがないほど日本人は雨に意識を向けてきた。この本と出逢えたら、鬱陶しいと感じる梅雨の過ごし方も変わるかもしれない。（KH）

『雨音 あまおと』（青幻舎・いまじょう二七五〇円）

雑誌・広告などで活躍する今城純さんの、三年ぶりの作品集。

すべての写真がデジタルではなくフィルムで撮影されていて、雨の日の景色の

ように、柔らかな輪郭と色彩の写真集です。目まぐるしい日常で疲れた心を癒やしてくれます。一服の清涼剤として、いかがでしょうか。

(YH)



『雨音 あまおと』

『バムとケロのにちようび』(文溪堂・島田ゆか作・絵・一六五〇円)

雨の日曜日。ケロちゃんは楽しそうだけど、バムは外で遊べないからつまらない。そうだし、おうちで本を読もう！っとその前にケロちゃんの汚したお部屋を片付けて、お菓子を作って……本を読むために準備を始めるバム。ところが思い通りに全く、全然、進まない……。でもケロちゃんと一緒なら、なんだかなでやっばり楽しい！ 予定通りにいかなかったって楽しかったら、それでいいや！ そんな風に前向きな気持ちになれるお話です。

(たかを)



『バムとケロのにちようび』

『もつとすこすぎる天気の間鑑 空のふしぎがすべてわかる！』(KADOKAWA・荒木健太郎著・一三七五円)

天気の図鑑の第二弾。雲や雨、虹、雪など天気に関する内容が見開き一ページで分かりやすく区切つてあるので、とても読みやすく書かれています。内容は大人でも「へえ〜！」と知らないことが多いので、お子さんと一緒に読むのにおススメです！

(たかを)

『みずとはなんじゃ？』(小峰書店・かこさとし作／鈴木まもる絵・一六五〇円) かこさとしさんが亡くなる直前まで手がけていた最後の絵本です。かこさんのお話に、鈴木まもるさんが絵をつけています。人にはいかに水が必要か、そのために何をやるかなど子どもにもわかりや

すく書かれています。これからの地球環境を一緒に考えていくきっかけになる絵本です。

(たかを)



『みずとはなんじゃ？』

『おじさんのかさ』(講談社・佐野洋子作・絵・一五四〇円)

とある偏屈なおじさん。出かける時にはいつも立派な傘を持ち歩き、大事な大事なその傘は、雨が降っても決して開くことはありません。なぜなら、「かさかぬれるからです」。

そんなおじさん、ある雨の日に子どもが傘をさして楽しそうに歌っているのを聞き、はじめて傘を広げてみると……その先にはこれまでになかった世界が待っていました。傘とともに読み手のこちらもぱっと心が開いて、晴れやかな気持ちになる瞬間がとても気持ちのいい絵本です。声に出して読むのもまた楽



しい。子どもの頃読んだ方も、ぜひもう一度。  
(AKFL)



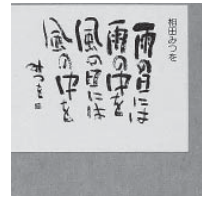
『おじさんのかさ』

『新編宮沢賢治詩集』(新潮文庫・天沢退二郎編・六〇五円)

宮沢賢治詩集のなかから、「雨ニモマケズ」を。私という存在を認め、日常の些細なことを幸せと感じ日々を過ごす。何より大切なものを自答させてくれる。  
(T.M)

『雨の日には……』(文化出版局・相田みつを著・一七六〇円)

素直に自分らしく心を込めて人生を歩んでいく、丁寧。そして続く言葉は風の日。雨は絶望を表しもするが、反転して過去を洗い流し、希望をも意味すると思うと悪いばかりじゃない、恵みの雨なのだと思う。  
(T.M)



『雨の日には……』

『頭痛ーるが贈るしんどい低気圧とのつきあいかた』(新潮社・頭痛ーる編集部著・一五四〇円)

雨の日はしんどい。もう何年も前から天気が悪くなると頭痛になる。低気圧のせいよといいながら。原因や対策を考えたいことなどなかった私。このような対策本が出てきているということは、我慢するしかなかった同じような悩みを持つ人が明日の天気を気にしなくても済むようになる。首を温めたり五秒でできる肩甲骨ストレッチなど、すぐできて効果のある日々の習慣が紹介されているので、悩みのある人は是非やってみてほしい。  
(N)

※「頭痛ーる」は、気圧の変化による体調不良が起こりそうな時間帯の確認や、痛み・服薬記録ができる気象予報士が開発した気象病対策アプリのこと。



『頭痛ーるが贈るしんどい低気圧とのつきあいかた』

『こんな日は喫茶ドードーで雨宿り。』(双葉文庫・標野風著・六九三円)

雨はなにも天気だけの話ではなく、心模様の表現としても用いられます。誰かの何気ない一言に傷ついてしまったり、誰かを不本意に傷つけてしまったり、き出してしまったり……。そんな時に人々が足を止める、おひとり様専用カフェの「喫茶ドードー」。一つ一つのお話が丁寧で優しく描かれていて、不思議とするつと読めてしまいます。心が晴れやかになる一冊。  
(RN)



『こんな日は喫茶ドードーで雨宿り。』

『雨のことは辞典』（講談社学術文庫・倉嶋厚、原田稔編著・一〇三四円）

昔から日本語には様々な雨をあらわすことばが存在する。季語や気象用語のようなものから雨を表す方言まで、約一二〇〇語を集めた辞典。一つ一つの言葉の解説がまるで随筆のように感じられるところも、この本の良さと言える。その時々々の気分でページを開きそこに記された雨の言葉との出会いを楽しんでみてはいかがでしょう。あとがきにある気象用語のコラムもぜひご堪能ください。

(M)



『雨のことは辞典』

『空がおしえてくれること』（幻冬舎・蓬萊大介著・一五四〇円）

気象予報士・蓬萊大介さんのエッセイ。晴れ、雲、風、虹、雪、雷などのテーマで綴られています。もちろん「雨」も。

雨はどちらかというと、マイナスのイメージを持たれることが多いと思います。わたしもそうでした。しかしこの本から雨を好きになれるヒントをもらいました。雨って？ 降水確率って？ 一時間に〇〇ミリって!? など蓬萊さんのお人柄たっぷりわかりやすく説明してくれていますよ。

(n.y)

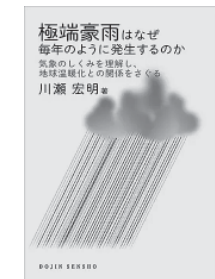


『空がおしえてくれること』

最後に気象について専門的な書籍も少し紹介しましょう。

『極端豪雨はなぜ毎年のように発生するのか』（化学同人・川瀬宏明著・一八七〇円）

数十年に一度という極端な豪雨は毎年のように頻発してもはや夏の代名詞のようだ。豪雨をもたらす要因となる気象メカニズムや、豪雨に対する地球温暖化の影響をわかりやすく解説。



『極端豪雨はなぜ毎年のように発生するのか』

『水』という物質の不思議な科学』（C&R研究所・齋藤勝裕著・二四五三元）  
水がなければ地球上に生命は誕生しなかった。「水」とはそもそも一体何なのか。

地球科学史における水の誕生から地球との関わり、物質としての「水」について。さらには人類と水との関わり、エネルギー資源としての水や水と経済活動についてなど「水」という物質について科学的にわかり易く解説した一冊。

『ふしぎで美しい水の図鑑』（緑書房・武田康男著・二二〇〇円）

気体・液体・固体と状態を変化させる水、そして水から生み出される現象の数々を美しい写真で紹介する水の図鑑。

(広島駅前店)

今月の  
おすすめ

## コンピュータ

### 自作OSで学ぶ

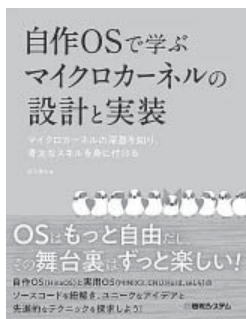
### マイクロカーネルの設計と実装

怒田晟也著

マイクロカーネルとはOSの中核を担っているカーネルの中でも、必要最低限の機能だけを実装したもののこと。本書で教材とするのは三つの実用マイクロカーネルと、著者が独自に開発した教育用マイクロカーネル。四つのソースコードを比較することでそれぞれの特徴を捉えながら、OSの様々な機能がどのように設計されているかについて学んでいく。

秀和システム

三九六〇円



### ソフトウェア設計の トレードオフと誤り

Tomasz Lelek, Jon Skeet 著

渋川よしき他訳

「人生は選択の連続」とはシェイクスピアによる名文だが、ソフトウェア設計もまた、選択の連続だ。そしてある問題を解決するための選択が、他の部分に犠牲を強いることも少なくない。本書はそんなソフトウェア設計におけるトレードオフについて、様々なシーン別にまとめたもの。「コードの重複は必ずしも悪ではない」「柔軟性と複雑性のバランス」など、開発者の心にぐつと刺さる章題が並ぶ。ソフトウェア設計を進める中で選択に迫られた際にさっと助けになる、学びに満ちた一冊。

オライリー・ジャパン 四一八〇円

### スタッフエンジニア

ウィル・ラーソン著

増井雄一郎監修・解説 長谷川圭訳

日本ではまだ認知度が低いが、海外では多くのIT企業が取り入れつつあるというスタッフエンジニア。開発から距離を置きマネジメント職に進むのではな

く、卓越した技術力とエンジニアならではの知見で開発チームを導く存在として、注目が高まっている。本書はテックリードのような既存のシニア職とスタッフエンジニアの異なる点、重複する点について解説した後、欧米で活躍する現役スタッフエンジニアたちへのインタビューを通して、その実像に迫っている。

日経BP 二七五〇円

どうしてこうなった？

セキユリテイの笑えないミスと  
その対策51

増井敏克著

セキユリテイ事故と聞くとハッキングやサイバー攻撃といったものを想像しがちだが、実際にはUSBメモリーの紛失や退職者による情報の持ち出しなど、人為的な事故の方が高い頻度で起きている。本書はそういった「あなたの職場で、明日にも起こり得ること」を中心に、セキユリテイ事故の例とその解決策についてまとめている。セキユリテイ担当者だけでなく、全社的にセキユリテイへの意識を高めることこそが重要だ。

翔泳社 一九八〇円

翔泳社

一九八〇円

今月の  
おすすめ

自然科学

温かいテクノロジ

林 要著 本書は、Pepper プロジェクトに参画し、世界初の家族型ロボット「LOVOT」の開発者林要の著作。SF小説や映画などのエンターテインメントで今はまだ実現していないテクノロジと生活を想像したり、可能性にワクワクしたことはあるだろうか。フィクションではテクノロジの可能性と凄さに驚嘆しつつ最終的には「人間」について考えさせられる。また、かつてはフィクションの中でしか見なかった夢の機械・携帯やタブレットが生活必需品となっている。それは当然だ、テクノロジは人間が思い描いてその生活の中に実現させるからだ。これからも新しい技術が現れるが私達はあたふたしながら受け入れていくだろう。著者はロボットを開発することは「人間」を知ることというが、この本を読めばその意味がわかる。

ライツ社

二〇九〇円

アイスピックを握る外科医

背徳、殺人、詐欺を行う卑劣な科学者

サム・キーン著

斉藤隆史訳

我々は今、よほどの大病でなければ死ぬこともなく冬でも凍えることなく暮らしている。これは科学の発展によるものだ。だが光あるところに影があるのもまた事実。たとえば博物学は奴隸商人が活躍していたから進歩した。解剖学の陰には墓泥棒がいた。エジソンは電化の利権を守るため犬や馬をたびたび感電死させた。人を痛めつけると何が起るか確かめたい心理学者だの、数百の黒人を治療せずに経過を記録していたアメリカ公衆衛生局だの、枚挙にいとまがない。ロボットミイ手術やナチスによる人体実験など読むのがしんどい場面ばかりが続く。

本書は科学の素晴らしさを認めつつ、あえてその暗黒面を集めたものだ。すべての科学者が清廉とは限らない。倫理観が欠如している者もいる。純粹に探求心から倫理を逸脱した結果がこの有様だ。彼らが必要しも名声や金を欲して行為に及んだわけじゃないのが恐ろしい。

柏書房

三〇八〇円

もしニーチェが  
イッカクだったなら？

動物の知能から考えた人間の愚かさ

ジャスティン・グレッグ著 的場知之訳

近年、ヒトと動物の知性を対比して論じる動物学の分野から、ベストセラー本が増加している。個々にあげつらうことはしないが、その多くが「ヒト固有のものと思われていた知性」が「ヒト以外にもあった！」といった論旨である。

カナダ・ノバスコシア州にある聖フランシスコ・ザビエル大学の非常勤講師であり、イルカの社会研究で豊富な経験をもつ動物行動学者である著者は、そんな「ボビュラーサイエンス」の風潮の中、「知性は生物学的な事実ではない。ヒトの知性や行動がすべての動物のなかで例外である」という考えに、科学的根拠はまったくない」と断言する。まずは「知性≠善」という確信を揚棄せよ。知性がなければ、「歴史の惨禍」の数多くを経験せずにすんだかもしれないのだ、と。

「読解精説」以外のやり方でニーチェに挑みたければ、まずは本書を手にとり取れ

柏書房

二四二〇円

今月の  
おすすめ

医学書

医師と患者は対等である

岸見一郎著

本書は、アドラー心理学を解説したベストセラー『嫌われる勇気』（ダイヤモンド社・一六五〇円）の著者である岸見一郎氏による、患者とより良い関係を築きたいと考える医師に向けた一冊。医療機関でのカウンセラーとしての経歴や、心筋梗塞治療を受けた患者としての経験を交えた、より実践的な内容となっている。

日経BP

二六四〇円

先輩、ケアの優先順位って

どう考えますか？

昭和大学附属病院看護部編著

臨床現場では、多重業務が次々と発生し、多くの看護部がケアの優先順位に悩んでいる。そこで本書は、一八八人の看護師にアンケートを行い、「優先順位に困る場面」について徹底調査し、その結果をふまえて先輩と一緒に振り返る形式

で解説している。後輩・先輩の両方からアンケートをとっているのが、双方の本音のわかる考え方を学ぶことができる。現場での困った場面を打破するヒントが詰まった一冊。

照林社

一三二〇〇円



全く英語が話せなかった私にとっておき  
医療英語勉強法

山田悠史編著

Medical English Hub (めどはぶ) 協力

医療者がまず覚えるのは医療英会話等アドバイスがいっぱい。欧米の医療現場で活躍している人たちは、どのようにして英語を身につけたのだろうか。それぞれの執筆자들이学習歴・学習時間・教材に分けて体験を語る。自分にあった学習法のヒントが見つかるかも。執筆協

力の「めどはぶ」は「国内外で活躍する医療者を育成する団体」で学習プログラムを提供している。メンバー間での交流ができて楽しく学べるコミュニティだ。

金芳堂

三〇八〇円

マンガと図説で見えてわかる

ICF (国際生活機能分類) の  
使いかた

ICFとリハビリテーション連携を考える会編著  
雑誌「リハビリナース」の連載をもとに、大幅な加筆修正されたもの。障害があっても、その人らしく生きていけることが大切な目標。そのためにICFの考え方を学び、理解を深めて現場で使えるようにしていきたい。今までどう使えばいいかと悩んでいた方にもおすすめ。

メディカ出版

三六三〇円



今月の  
おすすめ

社会科学

人を動かすルールをつくる

ベンヤミン・フアン・ロイ&  
アダム・ファイン著

多くの法律がある中で、ある法律が環境を望ましく変化させるにはどうしたらよいか。本書では行動科学などの社会科学の成果を取り入れていくことが必要だと論じている。犯罪や企業行動など法律による規制が多大に期待されるものの、それに対して望ましい結果が得られないことも多い。著者たちは法律の条文だけでなく、人々がその法律を守るように行動するにはどういう仕組みが必要なのか、人々の思考や行動を分析することが重要であることを各章の事例で取り上げている。

従来の法学のように、条文を解釈し、判例を整理し、それを訴訟などに応用していく現状を変えようとする意欲的な一冊である。

みずす書房

三九六〇円



経済の流れと仕組みでわかる

人類の1万年史

フィリップ・コガン著

経済は人類の発展とともに進化してきた。古代において農業の発達により生産と貿易が生まれ、様々な都市国家が莫大な富を蓄えた。すると次第に貨幣の使用が始まり、商業が発達していき産業革命へと流れは続いていく。本書はそうした経済の通史をわかりやすく理解することができ、これは経済ジャーナリストが著している点が大きく寄与している。経済学を学ぶうえでのファーストステップとすることが本書の有効な使い方だろう。第二章では、第二次大戦後の各国の経済状況について記されていており、日本の急速な経済復興にも着目されている。基本的には欧米諸国を軸としたなか

での経済史における日本の位置づけというのにも気になるポイントだ。

原書房

三〇八〇円



理念経営2.0

佐宗邦威著

古くから会社の理念というものは社長が決定し、社員が従う。この二極間構造で成り立っていた。言い方を変えればその程度で良かったのだ。しかし多様化の進む現代社会において会社の持つ「理念」というものが今まで以上に重要視されている。

従業員、株主、パートナー企業、ユーザー、各方面に対して単に「利益を出している」というだけでは、支持や共感を得られない。つまりは労働力の提供、出資、事業の拡大、売上すべてに「経営理念」が影響する。故にこれからの「経営

理念」とは単に掲げるスローガンにあら  
ず、自社の社会的価値、存在意義を示し  
共感させること、そして何よりそれぞ  
れのステークホルダーと「共に在る」こ  
とが重要なのだ。経営者のみならず、一  
般社員も理解を深めたい一冊である。

ダイヤモンド社 二四二〇円



### 創始者たち

ジミー・ソニ著 本書はベイパルがい  
かにして今日の立場を築き上げたのかを  
追う創業の物語だ。小さなスタートアッ  
プがわずか十数年で上場し巨大なイーベ  
イに立ち向かう姿が克明に描かれる。

ベイパルは一人の天才が作り上げたも  
のではない。さまざまなメンバーが切磋  
琢磨することでイノベーションが生みだ  
されたことが著者の綿密なインタビュー

から伝わってくる。まるでフィクション  
のような波乱に満ちたベイパルの物語を  
ぜひ本書を読んで追体験してみたい。

ダイヤモンド社 二四二〇円



### とにかく仕組み化

安藤広大著 前著『数値化の鬼』（ダ  
イヤモンド社・一六五〇円）で仕事ので  
きるプレーヤーになるための考え方を、  
『リーダーの仮面』（同・一六五〇円）で  
マネジャーになるための頭の切り替え方  
を説いて来た著者の第三弾。本書では人  
の上に立ち続けるために必要な「組み  
み化」の考え方を示している。

「仕組み化」とは「ルールを決めて、ちや  
んと運営してゆくこと」であり、上に立  
つ人間はルールを作る責任を持つ。仕事  
が特定の人にしか出来なくなるような「属

人化」は「仕組み化」の対極であり組織  
の停滞を招くので避けるべきであり、本  
書で示される五つのステップを踏まえて  
「仕組み化」すれば組織も個人も共に成長  
することが出来ると説いている。

マネジャー、さらには経営者にも参考  
になる一冊。

ダイヤモンド社 一七六〇円

### QUITTING やめる力

最良の人生戦略

ジュリア・ケラー著

続けるか、やめるか。仕事、勉強、人  
間関係等、人生において何度も突きつけ  
られる問いだ。失敗、弱さといったネガ  
ティブなイメージで捉えられがちで、「や  
める」ことをためらう人は多い。それと  
は対照的に、自然界では生き延びるため  
なら迷わずやめる。「やめる」ことは生  
存戦略の一つなのだ。

ただし本書は闇雲にやめることを  
煽っているのではない。科学的に正しい  
やめどきを知ることが、現状を変える可  
能性を広げ、人生を豊かにする試みなの  
である。

日本経済新聞出版 一九八〇円

今月の  
おすすめ

人文科学

土偶を読むを読む 縄文ZINE編

晶文社刊『土偶を読む』（竹倉史人著・一八七〇円）。二〇二二年に刊行され話題になり、遂にはサントリー学芸賞まで受賞した大変面白い本であるが、実際の考古学者たちの中では静かに「炎上」していた。その炎上をプロの目で検証・追体験するこれまた面白い本が出てしまった。これはセットで読むととてももなく面白い。装丁の白い方『土偶を読む』をまだ読んでいないかたは是非一緒にどうぞ。

文学通信

二二〇〇円

梵網経の教え

今こそ活かす梵網戒

船山 徹著

いまなお読み継がれる大乘仏教徒の生活規則『梵網経』。平易な現代語訳に基づき、その教えと特徴を解説する。

現在も続く終わらない戦争、そこから生じる報復の連鎖。梵網経はそもそも戦

争から身を離せ、虚しさばかりの報復などしようと思ふなと説く。混迷する現代の課題に本経の教えはどう応えるのか。

臨川書店

一九八〇円

実存思想

飯島宗享著

キルケゴールやヤスパースなどの研究及び翻訳でつとに知られる著者の四十年まえの著作が増補・改題されて、この度復刊した。

すでに色褪せて久しい実存思想だが、人間がそれぞれの生活や思考のなかで意義を持つべく観察が行われることを要求するのが実存である。著者はいう。それゆえ実存思想は思弁的観念的ではなく、行動的生活的である。

その意味において二十一世紀の今こそ、哲学の領域を超えて読まれるべき一冊であるといえよう。

未知谷

二七五〇円

親といるとなぜか苦しい

「親という呪い」から自由になる方法

リンジー・C・ギブソン著

親に対し子どもが感じる不安や孤独

感、混乱。子どもはそれらにどう対応し、立ち向かえばよいのか。大人になっても自身に親に距離を感じたり、どこか生きづらさを抱えている人は多い。著者はそれらの原因を子ども時代の親との関係性や親のタイプにあると考え、特に感性豊かな子どもに焦点を当て、「精神的に未熟な親」が子どもに及ぼす影響を具体例を交えながら論じる。

東洋経済新報社

一六五〇円

きみが校長をやればいい

柴山翔太著

私立福岡女子商業高校に国語教師として就任した著者は、小論文指導を武器に、一年目で国公立大学進学者を二十名出した。しかし翌年度、理解者であった校長は定年退職予定。著者は理事長に今後のビジョンを語り、校長の留任を掛け合ったところ、なんと「きみが校長をやればいい」と。そして三十歳にして、校長としての怒涛の日々。生徒を後押しし、生徒が主体的に考え、挑戦していく学校を目指す、驚きのドキュメント。

日本能率協会マネジメントセンター

一八一五円



今月の  
おすすめ

文学・文芸

眠れない夜にみる夢は

深沢 仁著

素晴らしい読書体験だった。この一言に尽きる。

先が全く想像できないのに、どこかで起きているのだと思わせる舞台設定、登場人物たちの抜群の個性、そして彼らが発する台詞、どれをとっても唯一無二だ。

『健やかな馬鹿』の主人公を取り巻く男女三人の三角関係を描く「明日世界は終わらない」、親友のために不倫相手との関係を切って回る「不自由な大人たち」、同僚の元彼氏に「一晩あなたを買わせてほしい」と交渉を持ちかける「砂が落ちきる」、など多種多様な五編を収録している。軽やかでありながら読み手の捉え方次第で何度でも姿を変え、息をしているような小説。読書好きであれば見逃す手はないだろう。読み終わった今、わたしは書店員としてこの本を多くの方に届けたいと心から思っ

ている。

東京創元社

一七六〇円

息

小池水音著

主人公の環が十五年ぶりに発症する喘息、彼女の弟の死因、父の醜聞……。すべてに「息をする動作」が関わっている。

私も深刻な喘息の持病があるので、発作時に天井を見つめる主人公の気持ちがよくわかる。とにかく目の前にあるもの、布団の柄だったり薬のパッケージだったり、そういうものを見ることしかできなくなる時間があるのだ。なにか考えたり、別の動作をすることはとてもできない。それは、とても苦しい時間だ。

環も、そして弟も、喘息を患っていた。しかし弟は首を吊るることによって他界し、環はひとり喘息の発作と戦いながら仕事をし、ものを食べ、生きてゆく。彼女は、事あるごとに弟の夢を見る。体温を持って生きている弟の夢。

「おとなになっても苦しいままだったら、どうする？」小さい頃に弟が言った言葉。息をしなくなった弟、息をしなくてはならないがそれが地獄のような自

分、野良猫を飼っても名前をつけられない母、脱法ハーブを使わなければ生きることができなくなった父。

環は喘息を発症することで、首を吊ったあとにも父に息を吹き込まれ、体温を持つっていた弟について、意識を向けることができるようになった。弟の体温は生きていた姉に伝わり、そうして彼がいなくなったあとも、彼女の心の中に残る。普段息をすることを意識することはあまりない。意識するとしたら、自分がいつもと違う状況になるとき。苦しさがあったとしても、また苦しさがあることを無意識に知っている。その状況になったとき、自分に何ができるのか、考えておかなくてはならないと思った。

新潮社

二〇九〇円



今月の  
おすすめ

文庫・新書

誰が千姫を殺したか

蛇身探偵豊臣秀頼

田中啓文著

豊臣家の滅亡で終わった大坂夏の陣から四十五年が経った万治三年のある日、大坂城の蔵に雷が落ち、大爆発が起こる。城の修復中に見つかった豊臣時代の地下へ続く石段を降りてみると、その暗闇の先には自分を豊臣秀頼だと名乗る者がいた。年月を考えれば老人になっているはずの秀頼だが、シワ一つ無い若者の顔のままであった。そしてその体は……！

恐ろしい姿になった秀頼は「千姫は大坂城で殺された」と驚くべき話を始める。

一体その時何が起こったのか？ これまでもあつと驚く設定の作品を数々発表してきた著者の新たな時代ミステリー。落語をモチーフにした著作も多数ある著者らしく、登場する人物の軽妙な会話は上方落語を彷彿とさせるおもしろさ。いろいろ楽しめるのが詰め込まれた一冊。

講談社文庫

八四七円

思い出せない脳

澤田 誠著

思い出せない時、あなたの脳の中では、何が起きているのか？

脳トレは記憶力の向上ではなく、手続き記憶という技術的向上である。睡眠不足は、仕入れた情報を整理し記憶する力を低下させる。情動を動かしながらの方が、記憶に残りやすい。エピソードがある」とより強い記憶となる。物事を思い出そうとすればするほど、思い出せなくなるのは、脳が意図的に思い出すのを抑制しているからである。年を取ると、記憶力が衰えてきたのではなく、記憶を引き出す力が弱くなっている。などなど……。

本書では、記憶し、その後思い出すときに脳内で何が起きているのか、私たちの身近に起こること、感じることを具体例としてともわかりやすく書かれている。また、各章の始まりには章の内容をよりイメージしやすいうように、小さなストーリーが書かれている。

脳の働きを説明した上で、記憶力向上のためのポイントも付け加えられており、読んだ後から実践できるようになっ

ているのもうれしい。

講談社現代新書

一〇七八円

カラー版 名画を見る眼Ⅰ

油彩画誕生からマネまで

高階秀爾著 一九六九年に岩波新書の

青版として発行された『名画を見る眼』がカラー版として登場。

五十年以上前に発行された本書は、研究が進展したり、刊行時から変わった点に注釈がついているが、今日でもそのまま通用するものである。岩波新書というレーベルの格と、著者の高階秀爾氏の偉大さを感じることが出来る。

更に図版がカラーで収録されていることにより、紹介されている絵画と文章を見比べて読むことができ、理解を深めることが容易になった。一卷では、ルネサンスから十九世紀までの有名な絵画十五点を紹介。

「ただ漫然と眺めるだけではなく、一歩進んで西洋絵画の本質について改めてよく理解したいとする要求に応じて」刊行されたという初版のカバーの言葉は、現在の我々にも通じるものである。

岩波新書

一三六四円

今月の  
おすすめ

芸 術

ゴッホのプロヴァンス便り

マーティン・ペイリー著 岡本由香子訳

もしあなたが絵画を見た時に、作者はたして何を考えていたのだろうか、と思いを馳せたことがあるならば、ある画家に関して、この本はその思索の助けになるだろう。十九世紀の画家、フィンセント・ファン・ゴッホは、フランス・プロヴァンス地方で過ごした最後の三年間に数多くの傑作を描いただけでなく、(確認できるだけでも)二六〇通もの手紙を書いた。この本は、その約半数を、手紙内で言及された油彩画やスケッチなどのカラー図版とともに読むことができる。手紙に記されるのは、描いている絵の色彩やモチーフ、読んだ本、友人や家族、働くこと、借金、生と死について……絵画と言葉、二つの表現が重なることで、百年前を生きたひとりの人物がより立体的に立ち現れる。巻頭の周辺人物紹介や巻末の彼の歩みをまとめたトラベルガイ

ドは、その視点をさらに豊かなものにするだろう。

マール社

三二七八円

絵金闇を照らす稀才

鍵岡正謹監修・著

幕末から明治初期にかけて土佐で活躍した天才絵師、絵金の作品集。「絵金」は「絵師の金蔵さん」の略称、愛称でありその生涯は多くの謎に包まれている。「菅原伝授手習鑑」などを題材とした芝居屏風絵が有名で、卓越した筆さばきや鮮烈な赤は見るものを圧倒する。

出身地の高知では絵金の芝居絵屏風を神社の夏祭りに飾る風習があり、闇の中に蠟燭の灯りで浮かび上がる様は妖しい世界へ迷い込んだよう。こんなに魅力的なお祭りがある地元の方がうらやましい限り。是非訪れてみたいと思った。

夏の暑さも吹き飛ばような「おどろおどろしい」イメージが強かったのだが、その仕事の多彩なことに驚かされる。白描画や絵本からはユーモアや温かみを感じられ、地域に根付いて今でも愛され続けている理由がよく分かる一冊。

東京美術

二八六〇円

魔法を信じるかい

ミスターメロディ・杉真理の

全軌跡

杉 真理著

近年シテイ・ポップブー

ムが再燃し、関連書籍も大滝詠一をはじめ多く出版されている。個人的には、数年前に「伊藤銀次 自伝 MY LIFE, POP LIFE」(シンコーミュージック・二二〇〇円)、昨年佐野元春「ザ・ソングライターズ」(スイッチ・パブリッシング・五二八〇円)発売と、「ナイアガラ・トライアングル」参加アーティストの書籍刊行が続いた流れで、次は杉真理か?なんて妄想していたら、こんなにも早く巡り合えて思わず快哉を叫んだ。

目の前で話して聞かせてくれているような文章で語られるヒストリーは、縁が手練り寄せるものすごい出来事と人のオンパレード。彼の音楽に浸ってきた人にはもちろん、「ウイスキーが、お好きでしょ」なら聴いたことがある、それを作った人なの?ぐらいの人にもぜひ読んでほしいと思う。そして登場する曲を、歴史をなぞりながら聴いてほしい。そうすればきっと虜になるに違いない。

DJ BOOKS

二七五〇円

**今月の**  
**おすすめ**  
**実用書**  
**地図・旅行書**

**スポーツの世界史**

デイビッド・G・マコーム著

待ジャパンの活躍も記憶に新しい昨今。人々はスポーツ観戦のためなら当たり前のようにスタジアムへ足を運び、さもなければテレビやネット中継にかじりつき、やめとけばいいのに夜更かしをして翌日の体調を顧みません。まったく、いつからこうなのか？

そんな人類とスポーツの関わりを詳らかにしてくれるのがこの本。歴史学からスポーツ史にまで研究対象を拡げた著者が、楽しい逸話を交えつつ運動と人間の軌跡を紹介してくれます。

狩りや戦争を有利にする術として発生したスポーツは、人々の娯楽となることで爆発的に発展していくのですが、その過程の興味ぶかいこと。たとえば「フットボール」の誕生から分裂、伝播の様子などはきつと、皆さまもおもわずうなってしまうのではないですか。

スポーツはもちろん、私たちの生活を豊かに弾ませてくれるだけではありません。商業的な意味合いの強くなったスポーツ興行はいまや、政治にも宗教にも人権にさえも影響を与えるようになったのです。アスリートの活躍をただのエンターテインメントとして消費するだけでなく、一人ひとりがスポーツとの向き合い方を考える時代がやってきたのかもしれない。スポーツ史という世界の一面面を通して、さまざまな想像力が駆動される一冊です。

ミネルヴァ書房 三〇八〇円

**図解 眠れなくなるほど面白い 鉄道の話**

綿貫 渉著

普段頻繁に利用しているものでも、改めて訊かれると実はよく知らないという事柄がままある。本書で取り上げられている「鉄道」も、通勤でほぼ毎日利用しているが、改めて認識すると知らないことが多くとても驚かされる。

例えば「発車時間を守らなくてもいい駅がある」という項目。日本の鉄道は時間に正確だという話をよく耳にするため、事故で遅れが出たりすることはあつ

ても守らなくてよい駅があるのか？と疑問をもったが、読んでみるとなるほど、山手線などの間隔が短い線では敢えて早く出発してもよい駅を作ってスムーズな運行が出来るようにしている、とのこと。次の電車がすぐ来るから、早く出ている車両があるとは気づかず、気にした事もなかった。しかし、逆に定刻通り出発しなければいけない駅では早く出発してしまうと法律違反になるとあり、それはそれで驚かされた。本書は雑学だけに留まらず技術やしくみ、歴史と少し専門的なことも噛み砕いた文章とイラストでわかりやすく次へ次へとスルスル読み進められてしまう。知るを増やす第一に本書を選んでまず「鉄道」を知ってみるのはいかがだろうか。

日本文芸社

九九〇円





語学・辞典

三省堂国語辞典から

消えたことば辞典

見坊行徳・三省堂編修所編著

歴代の『三省堂国語辞典』とその前身『明解国語辞典』から削除された項目を集めた、辞書から「消えた」ことばのコレクションだ。

辞書は今の社会に広まり、定着したと判断されたことばは採録されるが、その「今」から外れば、削除される。「レーザーディスク」「プロマイド」など、忘れ去られた、モノとして下火になった、編集方針上、ふさわしくないと判断されて削られた言葉など理由は様々だ。

また、削除されたのが何版からなのかなどの変遷がそれぞれの語の下部にある注釈についているのも面白い。実用的な辞典ではないけれど、類書はなく、ことばやそれにつながる分野に携わる方には資料的にも読物としても興味深い本である。

三省堂

二〇九〇円

世界史で学ぶ教養の英単語

IELTS & TOEFL テストの

頻出単語2120語

永井忠孝著

高校世界史の範囲を一五〇の英文で取り上げ、英単語と教養を同時に身に付けることができる。また、この本の中では英単語を教養単語、学校単語と区別し、目的に合わせて学習法を選べる。

教養単語とは、大学生やTOEFLテストで必須とされる英単語と定義している。教養単語を学習することにより、興味を持った分野の文献を英語で読むための基礎力が身につく。それに加えて、著者のおすすめ関連本も英文ごとに掲載されている。

次に学校単語とは、中学・高校生で習う英単語と定義している。英語学習に自信がない方でも、巻末で確認しながら英文を読み進めることができる。

教養を学び直したい人や、中学・高校生がこれから学習する本としておすすめである。

ダイヤモンド社

一九八〇円

カナヘイの小動物

ゆるっと♡カンタン

台湾華語会話

イラスト・カナヘイ 文・iku老師

今年に入ってやっとというかついにというか、海外旅行に行く人が増えた。個人的には周りに台湾へ行く友人が多く、商業施設や食料雑貨店などでも台湾フェアをよく見かける気がして、台湾流行っているのか?と思っていたところへ、六月から台湾で展覧会が開催されるイラストレーター・カナヘイさんの語学シリーズの新作がまさに「台湾華語」。「おはよう」「ありがとう」等本場に基本の日常フレーズを可愛いキャラクターと共に紹介。例文や解説もしっかり載っている。巻末に日本語から引ける索引も付いているので言いたい言葉から調べることも可能。

英会話と違い、発音は……?と不安になるかもしれないが、音声ダウンロードもできるので安心だ。

本書を片手に本場の台湾料理やスイーツを食べに行くのも楽しそうだ。

Jリサーチ出版

一三三〇円

おすす	今月の
すめ	

## 児童書

### キャンピングカーのたび

みねお みつ作・絵

最近のキャンピングカーや車中泊ブームもあり、街中でキャンピングカーを見る事が多くなりました。車内はどんな風になっていて、これから何処へ行くのだろうか。ついつい想像が膨らんでしまいます。

この本は、そんな思いに全て答えてくれます。軽自動車を改造したキャンピングカーというものも、もしかしたら自分にもという夢がありますし、色々な車の種類や、どんな所へ行けるのか、車内で何をしているのか、どんな設備があるのか、何を食べているのかまで描かれているのです。最後には、こんな夢いっぱいキャンピングカーを頑張つて動かしているエンジンのイラストに感動します。

この本を読んでから街中でキャンピングカーに出会えると、ワクワクすること間違いなしです！

福音館書店

一六五〇円

### あめがふつてきたよ

メアリー・サーフオゾ文

ケイコ・ナラハシ絵 木坂 涼訳

梅雨の何が嫌か。①じめじめしている。

②洗濯物が乾かない。③荷物が增える。

④髪の毛が爆発する。書き出したらこのページいっぱいになるくらい、梅雨の時期は憂鬱になる。いつから雨が、どうか梅雨が苦手になったか考えてみると、高校生の頃にはもう……。携帯電話や化粧をした顔など守る物が増え、後処理のことを考えるようになってしまった私は、もう雨とは仲良くなれないのかも。れない。だけど、屋根に雨粒が当たる音が意外と耳に心地よかつたり、濡れた土の匂いに心が落ち着いたり、車のライトに照らされた雨粒が綺麗だと思つたり。この本に出てくる女の子の気持ちがあつたと伝わってくるのは、自分も昔はその身ひとつで雨の中に飛び出していたことがあるからなのだろう。

忘れていた子どもの頃に体験した雨の躍動を、絵本をきっかけに思い出してみるのはいかがでしょうか？少しだけ、梅雨が楽しくなるかもしれません。

徳間書店

一八七〇円

### TRUE Colors

Y A I ジェンダーフリーアンソロジー

小林深雪他著 鎌谷悠希画・漫画

中学生は人格形成に大きな影響を与えることが多く起こる時なのではないだろうか。アイデンティティを確立する年頃の彼らや、かつての私たちは、その時に大いに悩ま苦しんだからだ。七人の作家が描くジェンダーと中学生をテーマにした心と身体を取り巻くあれこれ。描かれる彼らは「今」の出来事に必死で向きあう。その姿は羨ましいほどに柔軟でみずみずしく、そして、ふとしたことで何色にでもなる。

性自認や性的指向にこれが正解、普通なんてものではなく、個人の定義の自由である。何歳であつても自分のことをわからないままかもしれない。そもそもみんな同じ人間ではないのだ。それでも心身ともに霧がかかりやすい。

アンソロジーだからこそ「今」を捉える中学生たちの問題もリアルで様々。YA小説だからこそ世代を問わず読んで触れてもらいたい。わからないままではなく、少しずつでも知つていこう。

講談社

一四三〇円

アーサー・マンデヴィルの不合理な冒険

河瀬 真紀

旅は、大変なことや面倒なこともあるけれど楽しいものだよなあと思う。でもそれは、自らの意思で行くからこそ楽しいのであって、そうでなければ結構ストレスのかかることなんじゃないだろうか。

『アーサー・マンデヴィルの不合理な冒険』は、苔と羊歯のある庭いじりが大好きなアーサーが、父親であり稀代のペテン師であったジョン・マンデヴィルの、行ってもいなくせに書いた旅行記のせいで、プレスター・ジョンの王国を探しに行かされる、後ろ向きの冒険譚です。

やる気満々の夢見がちな弟エドガーとえらそうな修道士ベトルスと共に、いやいや旅をさせられるアーサーに笑いつつ、ページをめくり続けました。旅の途中で色々な出来事に出会うのですが、犬頭人テオポンポス

がよかった。子供についての問いに対し、「余ら全員が父親である」から始まるやりとりには考えさせられるものがありました。

本を読み終え、ちよつと気が合わないなど思う人や、そんなに乗り気でもなかったことが思わぬ方向に進むのかも、と思え、未来は楽しく不確定なのだど気付けたことがちよつとうれしかったです。

(五十二歳・主婦)

\*『アーサー・マンデヴィルの不合理な冒険』

(大福書林・宮田珠己著／網代幸介画・二七五〇円)

# ATION

<p>丸善 = <b>アスナル金山店</b> = ☎(052)211-9788 〔営業時間〕10時～22時</p> <p>丸善 = <b>ヒルズウォーク徳重店</b> = ☎(052)846-2610 〔営業時間〕10時～21時半</p> <p>丸善 = <b>イオンタウン千種店</b> = ☎(052)715-7911 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = <b>豊田 T-FACE 店</b> = ☎(0565)41-3282 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>名古屋栄店</b> = ☎(052)212-5360 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>名古屋店</b> = ☎(052)589-6321 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = <b>岐阜店</b> = ☎(058)297-7008 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = <b>四日市店</b> = ☎(059)359-2340 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>滋賀草津店</b> = ☎(077)569-5553 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = <b>京都本店</b> = ☎(075)253-1599 〔営業時間〕11時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>松坂屋高槻店</b> = ☎(072)686-5300 〔営業時間〕10時～20時</p>	<p>丸善 = <b>高島屋塚店</b> = ☎(072)225-0930 〔営業時間〕10時～19時半</p> <p>丸善 = <b>セブンパーク天美店</b> = ☎(072)339-7330 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店 = <b>梅田店</b> = ☎(06)6292-7383 〔営業時間〕10時～22時</p> <p>丸善 = <b>八尾アリオ店</b> = ☎(072)990-0291 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = <b>高島屋大阪店</b> = ☎(06)6630-6465 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>大阪本店</b> = ☎(06)4799-1090 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>難波店</b> = ☎(06)4396-4771 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>天満橋店</b> = ☎(06)6920-3730 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>上本町店</b> = ☎(06)6771-1005 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>近鉄あべのハルカス店</b> = ☎(06)6626-2151 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>樫原店</b> = ☎(0744)29-0781 〔営業時間〕10時～18時半</p>	<p>ジュンク堂書店 = <b>奈良店</b> = ☎(0742)36-0801 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>西宮店</b> = ☎(0798)68-6300 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>芦屋店</b> = ☎(0797)31-7440 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>神戸住吉店</b> = ☎(078)854-5551 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>三宮駅前店</b> = ☎(078)252-0777 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>三宮店</b> = ☎(078)392-1001 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>舞子店</b> = ☎(078)787-1250 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>明石店</b> = ☎(078)918-6670 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>姫路店</b> = ☎(079)221-8280 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 = <b>岡山シンフォニービル店</b> = ☎(086)233-4640 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 = <b>さんすて岡山店</b> = ☎(086)230-3001 〔営業時間〕10時～20時</p>	<p>丸善 = <b>広島店</b> = ☎(082)504-6210 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>広島駅前店</b> = ☎(082)568-3000 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>高松店</b> = ☎(087)832-0170 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>松山店</b> = ☎(089)915-0075 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 = <b>博多店</b> = ☎(092)413-5401 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>福岡店</b> = ☎(092)738-3322 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>大分店</b> = ☎(097)536-8181 〔営業時間〕 月～土 10時半～20時 日 10時半～19時</p> <p>丸善 = <b>天文館店</b> = ☎(099)239-1221 〔営業時間〕10時～20時半</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>鹿児島店</b> = ☎(099)216-8838 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = <b>那覇店</b> = ☎(098)860-7175 〔営業時間〕10時～21時</p>
---	--	--	--



# INFORM

<p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>＝ 札幌店 ＝</b>            ☎(011)223-1911            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 旭川店 ＝</b>            ☎(0166)26-1120            [営業時間] 10時～19時半</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 弘前中三店 ＝</b>            ☎(0172)34-3131            [営業時間] 午前10時～午後7時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 盛岡店 ＝</b>            ☎(019)601-6161            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 秋田店 ＝</b>            ☎(018)884-1370            [営業時間] 10時～20時</p> <p>丸善  <b>＝ 仙台アエル店 ＝</b>            ☎(022)264-0151            [営業時間] 10時～21時            日・祝 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 新潟店 ＝</b>            ☎(025)374-4411            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 郡山店 ＝</b>            ☎(024)927-0440            [営業時間] 10時～19時</p> <p>丸善  <b>＝ 水戸京成店 ＝</b>            ☎(029)302-5071            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 日立店 ＝</b>            ☎(0294)32-7401            [営業時間] 10時～20時</p>	<p>丸善  <b>＝ ジョイホパーク吉岡店 ＝</b>            ☎(0279)26-9534            [営業時間] 9時～20時</p> <p>丸善  <b>＝ 丸広百貨店飯能店 ＝</b>            ☎(042)973-1111            [営業時間] 10時～19時</p> <p>丸善  <b>＝ 丸広百貨店東松山店 ＝</b>            ☎(0493)23-1111            [営業時間] 10時～19時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 大宮高島屋店 ＝</b>            ☎(048)640-3111            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 桶川店 ＝</b>            ☎(048)789-0011            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 津田沼店 ＝</b>            ☎(047)470-8311            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 舞浜イクスピアリ店 ＝</b>            ☎(047)305-5808            [営業時間] 11時～21時            土・日・祝 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ ユニモちはら台店 ＝</b>            ☎(0436)26-7620            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 南船橋店 ＝</b>            ☎(047)401-0330            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 柏モディ店 ＝</b>            ☎(04)7168-0215            [営業時間] 10時半～20時</p>	<p>丸善  <b>＝ 丸の内本店 ＝</b>            ☎(03)5288-8881            [営業時間] 9時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 日本橋店 ＝</b>            ☎(03)6214-2001            [営業時間] 9時半～20時半</p> <p>丸善  <b>＝ お茶の水店 ＝</b>            ☎(03)3295-5581            [営業時間] 月～土 10時～20時半            日 10時～20時</p> <p>丸善  <b>＝ 多摩センター店 ＝</b>            ☎(042)355-3220            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 有明ガーデン店 ＝</b>            ☎(03)5962-4180            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 有明ワンザ店 ＝</b>            ☎(03)5530-5701            [営業時間] 10時～19時半</p> <p>丸善  <b>＝ メトロ・エム後楽園店 ＝</b>            ☎(03)5684-5130            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 新宿京王店 ＝</b>            ☎(03)5321-8327            [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 池袋本店 ＝</b>            ☎(03)5956-6111            [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ プレスセンター店 ＝</b>            ☎(03)3502-2600            [営業時間] 11時～20時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 大泉学園店 ＝</b>            ☎(03)5947-3955            [営業時間] 10時～22時</p>	<p>ジュンク堂書店  <b>＝ 吉祥寺店 ＝</b>            ☎(0422)28-5333            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 立川高島屋店 ＝</b>            ☎(042)512-9910            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 横浜みなとみらい店 ＝</b>            ☎(045)323-9660            [営業時間] 11時～20時</p> <p>丸善  <b>＝ ラゾーナ川崎店 ＝</b>            ☎(044)520-1869            [営業時間] 10時～22時</p> <p>丸善  <b>＝ 日吉東急アベニュー店 ＝</b>            ☎(045)594-8960            [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店  <b>＝ 藤沢店 ＝</b>            ☎(0466)52-1211            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 松本店 ＝</b>            ☎(0263)31-8171            [営業時間] 10時～20時</p> <p>MARUZEN &amp; ジュンク堂書店  <b>＝ 新静岡店 ＝</b>            ☎(054)275-2777            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ 名古屋本店 ＝</b>            ☎(052)238-0320            [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善  <b>＝ アピタ知立店 ＝</b>            ☎(0566)91-7170            [営業時間] 月～土 10時～21時            日 9時～21時</p>
--	---	--	--

営業時間は変更する場合がございます。ご了承ください。  
 定休日については、お手数をおかけしますが弊社HPまたは直接各店までお問い合わせ下さい。

# ブックブレスター



## 投稿募集

☆読者の皆様の投稿を募集しています。最近読まれた本の感想文、本にまつわるエッセイ、など本に関するもの。最近読んでおもしろかった本、感動した本、考えさせられた本を教えてください。四〇〇字〜六〇〇字程度で、おすすめの本のタイトル、出版社、住所、氏名(ペンネーム可)、年齢、職業を明記の上、お送り下さい。掲載分には二千円の図書カードを差し上げます。なお、原稿はお返しいたしませんのでご了承ください。

☆尚、本誌掲載と同時に、ホームページにも掲載させていただきます。

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二一五六一

丸善ジュンク堂書店「書標」編集室係

TEL〇三―五九五六―六一一

いつも「書標」をご愛読いただきましてありがとうございます。本誌定期購読料は以下の通りです。

定期購読料 年間一六八〇円(送料込)  
現金書留もしくは一四〇円切手十二枚で

お申し込み先

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二一五六一

丸善ジュンク堂書店特急係

TEL〇三―五九五六―六一一

FAX〇三―五九五六―六一〇〇

## 編集後記

コロナ禍で中止になっていた屋外屋内のイベントは復活し、学生の部活動もほぼもとに戻った。私事だが、この七月末の大会で娘は小学校からのソフトボール生活を終了する。暑い日は水と水分を、寒い日はお湯とカイロを持って試合応援に通った私もいつたん休憩だ。今年も既に暑いが、あと一か月がんばろう！(緒)



QRコード

PC・スマートフォンから  
<https://www.junkudo.co.jp/>



## コロナ禍が明けた今、 オンラインイベント について考えること 〔後編〕

に参加することは難しいが、アーカイブが残るので便利」という感想をいただくことが多い。人々のライフスタイルが多様になる今、場所と時間を制限しないというの大きなメリットになり得る。

イベント終了後は、アンケート回答を

場所の拘束がない点では登壇者に対しても同じで、過去に何度か海外在住の著者に出演していただいたことがある。ド

読む。お客様の声から実感するのは、オ

に出演していただいたことがある。ド

ンラインイベントがコンテンツとして見

は、イベント中に詩の朗読があった。時

端に、単なるイベントの枠を越える。今は

差のある遠く離れた著者と、同じ時間を

ネット上に無料動画が溢れ、視聴者側も

共有しているということに感動したり、

眼識があり、有料動画に対しては高いレ

お客様からも「まるで自分もその場に同

ベルのものが求められるため、どのよう

席しているような感覚になった」という

な価値を提供できるか毎回頭を悩ませる。

という点も大きな強みである。

一方で、オンラインイベントならではの

今年の春、新型コロナウイルス感染症

の強みもある。第一にその「手軽さ」で

は「5類感染症」へと移行した。オフラ

ある。お客様は好きなタイミングで視聴

インでのイベント開催が増える中で、オ

できるのが、場所と時間の拘束がない。

ンラインイベントは共存し得るのか。も

アンケートにも、「地方に住んでいてイベ

もちろん、お客様に満足していただける開

ント参加の機会があまりないから嬉しい

か、著者のことを深く知ったり、お店に

い」、「子育てや仕事があり、指定の時間

かけになったら……と願う。(おちび)

## 「書標 ほんのしるべ」 第535号

編集・発行人 中川 清貴

二〇二三年七月五日発行 頒価五十円（本体四十六円）

発行所 ㈱丸善ジュンク堂書店

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町十一番二十四号 ニューワールドビルディング

印刷所 ㈱七 旺 社

〒653-0012 神戸市長田区二番町四丁目二十七番地

「書標 ほんのしるべ」昭和61年7月15日第三種郵便物認可  
2023年7月5日発行（毎月1回5日発行 通巻第535号）

# MARUZEN JUNKUDO × サマリーポケット

## 預けた本は一覧で管理。タイトルや作者もデータ登録！

文庫本なら1箱に130冊入ります！

サイズ：幅44cm × 奥行33cm × 高さ24cm



### 丸善ジュンク堂書店のお客様限定プラン

3箱保管プラン

通常月額 1,320円 → 25%OFF 990円

5箱保管プラン

通常月額 2,200円 → 30%OFF 1,540円

詳細はこちらから



<https://spkt.jp/maruzen>

※ バーコードを読み込んで画像やタイトルをデータ登録します。バーコードがないものや読み取ることができないものは、適宜個別に撮影します。  
※ 価格は全て税込表示です。  
※ 本プランの対象となるのは、「サマリーポケット」に新規登録される方に限ります。  
※ 本プランはサービス利用開始後24ヶ月間有効です。（翌月以降は通常料金となります。）

## ご利用方法は簡単4ステップ



1 専用サイトで申し込み



2 届いたボックスに本を詰めて送るだけ



3 預けたものはPC・スマホで管理



4 使いたい時、最短翌日に取り出せる

## 本の保管場所に悩む、すべての方へ

# ジュンク堂書店

淳久堂書店

# MARUZEN

頒価 五十円（本体 四十六円）